

×
東京大学
公開講座

第143回 2026年秋季

国家と平和

10/31[±]

12:50~16:25

テーマ

「戦禍の記録、
国家の記憶」

11/14[±]

13:00~16:25

テーマ

「戦後日本の危機」

12/5[±]

13:00~16:35

テーマ

「国境を越える未来」

会場：東京大学安田講堂〈文京区・本郷キャンパス〉

※安田講堂は、バリアフリー対応となっています。

対 象 社会人・一般／大学生／高校生 定 員 1,000名(各日)

受講料 各日3,000円（事前申込が必要です）

※高校生以下として申し込まれる場合も、事前申込が必要です。

※文京区ふるさと納税返礼品「公開講座申込券」をお持ちの方も事前申込が必要です。

※各日の開場は12時を予定しています。

※オンライン同時配信は行いません（すべての講座ではありませんが、
後日、UTokyo Channelにて視聴できますので、そちらをご視聴ください）。

※やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合がございます。ご了承ください。



第143回 2026年秋季
東京大学公開講座

開講にあたって



第143回東京大学公開講座
企画委員会 委員長

村本 由紀子
(人文社会系研究科長)

現在、私たちは国際社会の一員として大きな転換点に立っています。一方では、気候変動やパンデミック、AIの飛躍的発展がもたらすリスクなど、一か国では解決不可能な地球規模の課題が山積し、国家の枠組みを超えた連帯の必要性が高まっています。しかし他方では、地政学的対立や格差の拡大、自国中心主義の台頭によって世界の分断が加速し、相互協力の基盤が各地で揺らいでいます。

いわば現代の国家は、グローバル化という「求心力」と、分断という「遠心力」の狭間で激しく揺れ動いているといえます。このような混迷の時代にあって、私たちは、いかにして平和を実現できるのでしょうか。

本公開講座では、国家が直面してきた過去の、そして現在進行形のさまざまな危機に目を向けつつ、変容する世界秩序における平和のあり方を問い直します。平和の構築において国家が果たすべき役割とは何か、あるいは、国家は既にその歴史的役割を終えつつあるのか——仮にそうだとすれば、国家に代わる枠組みはいかにあるべきか。こうした根源的な問いを掲げ、多角的な視点から解を探ります。

3日間のプログラムでは、第一日に「過去」(戦禍の記録、国家の記憶)から論を起こし、第二日に「今、ここ」(戦後日本の危機)を見つめ、第三日に「未来」(国境を越える未来)の地平へと、ゆるやかに視点を移しながら、この大きな問いに向き合っていきます。歴史を紐解き、学問領域を横断する講師陣の対話を通じて、既存の境界線を越えた「知の融合」を試み、未来に向けた国家と平和の新たな地平を展望します。

10月31日(土)「戦禍の記録、国家の記憶」

12:50 ~ 12:55

東大150周年イベントについて

理事・副学長 津田 敦

12:55 ~ 13:00

開講の挨拶

企画委員長・人文社会系研究科長 村本 由紀子

13
..
00
{
13
..
30

13
..
35
{
14
..
05

14
..
15
{
14
..
45

14
..
50
{
15
..
20

15
..
35
{
16
..
25

国家は平和の敵か味方か

法学政治学研究所・教授
瀧川 裕英



現在の世界を見ると、戦争を起こしているのは国家です。その意味で、国家は平和の敵です。しかし、国家が適切に統治されるならば、国内では社会秩序が保たれます。その意味で、国家は平和の味方です。果たして、国家は平和の敵か味方か。この講義では、この根本的な問いを法哲学の視点から考えます。

霊を慰め、平和を祈る:宗教者の戦後復興

人文社会系研究科・教授
西村 明



戦後日本では、国に代わって宗教者たちが協力し、戦没者の慰霊や遺骨収集に取り組みました。また、それぞれの信仰に基づいて平和を願う活動も展開しました。宗教という補助線によって、国家と平和の見え方はどのように変わるのでしょうか。

揺らぐ国際社会を支える共通の価値とは

総合文化研究科・教授
キハラハント 愛



多国間主義が揺らぐ今、国際社会は共通の価値そのものが問われる時代を迎えています。世界情勢や国連人権理事会特別報告者としての経験を踏まえ、国際社会の共通の価値は今なお存在するのか、その内容はどのように変遷してきたのかを考えます。

OSINTとデジタルアーカイブ —公開情報から考える国家・戦争・災害

情報学環・教授
渡邊 英徳



太平洋戦争、ウクライナとガザ、ホルムズ海峡危機、そして巨大災害などを対象に、公開情報を可視化して、検証可能な知見を社会に提供するOSINT(オープンソース・インテリジェンス)とデジタルアーカイブの実践について解説します。

総括討議

総合文化研究科・准教授
三浦 あゆみ



瀧川 裕英／西村 明／キハラハント 愛／渡邊 英徳

11月14日(土)「戦後日本の危機」

特別討論

第2日目は、船橋洋一氏の著書『戦後敗戦』(実業之日本社、2026年)を軸に多角的な視点から議論を深める構成としています。

戦後日本が直面した諸危機と そこからの教訓

公益財団法人国際文化会館 グローバル・カウンシル
チェアマン／元朝日新聞社主筆
船橋 洋一



提供:経団連

『戦後敗戦』——日本は戦後も敗戦したのではないか。それは「降伏なき敗戦」だったのではないか。とりわけ冷戦後のここ30年以上の日本経済と国力の衰退を見るにつけ、そのような危機感を抱くのは私だけでしょうか。

戦後日本の諸危機を日本近代史から読み解く

人文社会系研究科・名誉教授
加藤 陽子



日本は、西に中国、北にロシア(ソ連)、東に米国と海洋を介して「隣接」していた国でした。近代日本における安全感の形成過程を論じた上で、世界規模の経済的軍事的危機が続発した1930年代にあたって、その安全感が二分されてゆく過程を考察します。

戦後日本の諸危機と国際政治

公共政策大学院・教授
鈴木 一人



船橋洋一著『戦後敗戦』で論じられた、日本の「失敗の本質」が国際社会にどのような意味を持ち、本書で提示された「国民安全保障国家」が今後の日本において何を意味するのかを議論します。

総括討議

社会科学研究所・教授／研究所長
宇野 重規



船橋 洋一／加藤 陽子／鈴木 一人

12月5日(土)「国境を越える未来」

人災・天災の経済学研究フロンティア

経済学研究科・教授
澤田 康幸



社会経済構造の高度化や紛争に起因する「人災」と気候変動等による「天災」がもたらす巨大災害リスクについて議論します。市場・保険メカニズムの在り方、公的基盤の整備、コミュニティの役割に加え、国際協調を通じたレジリエンス強化について論じます。

デジタルネイチャー時代の国家と平和

新領域創成科学研究科・准教授
落合 陽一



AIやネットワーク技術の発展によって、人・モノ・情報は国境を越えて流通し、国家が前提としてきた「領土」「主権」「国民」という概念そのものが変容しつつある。一方で、地政学的対立や経済格差の拡大により、国家への帰属意識やナショナリズムも再び強まっている。

本講演では、デジタルネイチャーの視点から、物理空間と情報空間が重なり合う現代社会において国家の役割を再考する。サイバー空間、AIガバナンス、デジタル公共財といった新たな社会基盤を手がかりに、平和とは何か、国家は何を守るべきなのか、そして人類はいかなる新しい共存の枠組みを構想できるのかを考察する。

世界をつなぐインターネット

情報理工学系研究科・教授
江崎 浩



～明と暗、そして未来を考える～

インターネットは、デジタル技術を用いて、地球上のすべてのコンピュータ、そして人をつなぎました。インターネットには、産まれた時から国境がなく、デジタルの小包が”自由”にやり取り・加工される世界を創りだしました。自由には、明るい面(Brighter side)と暗い面(Dark side)が共存します。インターネットは、常に、国家主導ではなく、個人・コミュニティ・政府の3つのステークホルダでの運用を目指してきました。インターネットにおける、自由と平和そして国家との関係の過去・現在そして未来を考えます。

総括討議

人文社会系研究科・教授
芳賀 京子



澤田 康幸／落合 陽一／江崎 浩

16:25～16:35 閉講の挨拶 理事・副学長 津田 敦

【会場へのアクセス】

東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅／都営大江戸線 本郷三丁目駅／
東京メトロ千代田線 湯島駅・根津駅／東京メトロ南北線 東大前駅



受講申込方法

東京大学公開講座のwebサイトに「受講規約」等を掲載しておりますので、ご確認ください。

【受付期間】8月27日(木) 13時～ 各講義日16時

【定 員】各日：1,000名

【受 講 料】各日：3,000円(税込)

入金後の受講料につきましては、お客様のご都合による返金はいたしかねますのでご注意ください。

【申込方法】インターネットからのお申し込みとなります。

東京大学公開講座のWebサイトにアクセスし、所定の手順に従ってお申し込みください。

高校生以下の方も事前申込が必要です(各日先着200名まで)。必ず下記サイトの【高校生以下(受講料無料)の方】申込フォームよりお申し込みください。

文京区ふるさと納税返礼品「公開講座申込券」をお持ちの方も、事前申込が必要です。必ず下記サイトからお申し込みください。

<https://sites.google.com/g.ecc.u-tokyo.ac.jp/publiclectures>

(東京大学ホームページ → 社会連携 → 一般見学・公開講座案内 → 東京大学公開講座)

【支払方法】クレジットカード決済、コンビニ決済のどちらかを選択いただけます。

クレジットカード決済のお支払い回数は、1回払いのみとなります。

- 1 東京大学公開講座のWebサイトにアクセスし、「概要・申込方法」のページ内にある「【一般の方】申込フォーム」より必要事項を入力の上、『クレジットカード決済』か、『コンビニ決済』のどちらかを選択します。



2	クレジットカード決済	コンビニ決済
	お申込内容をご確認のうえ、 カード情報をご入力ください。	お申込内容をご確認のうえ、 お支払するコンビニを選択してください。



3	クレジットカード決済	コンビニ決済
	決済が完了しましたら、 クレジットカード決済完了メールが届きます。	申込完了メールが届きます。Web画面上で表示されたお支払い情報を印刷、もしくはメモしてください。「お支払い方法はこちらへ」をご確認いただき、選択しましたコンビニのレジにてお支払いください。



- 4 講座当日は、前日までにメールでお送りする受講証を、会場での受付時にご提示ください。
※決済完了メール、支払い完了を証明するもの、身分証明ができるものをご提示いただく場合がございます。
身分証の例(運転免許証、運転経歴証明書、住民基本台帳カード、社員証、学生証、保険証、マイナンバーカード、住民票、クレジットカード・キャッシュカード(氏名表記のあるもの)、公的料金証明書(支払い名義が本人のもの)など)

※注意：システムのメンテナンスを実施している期間には、お申し込いただけません。

案内・注意事項

本講座の撮影・録音・録画および資料の2次利用、詳細内容のSNSへの投稿は固くお断りいたします。

講演内容の盗用が発覚次第、著作権・肖像権侵害として対処させていただきます。

講堂内でのお手荷物の紛失、盗難等について、主催者は一切責任を負いかねますので、受講者ご自身で管理をお願いいたします。

講堂内での飲食はできません。また、会場内にゴミ箱はありませんのでゴミはお持ち帰りください。

やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合がございます。ご了承ください。

安田講堂は、バリアフリー対応となっています。

障害等のため配慮が必要な場合は、受講日の3週間前までにお問合せ、ご連絡ください。

小学生以下の方が受講される場合は、保護者の方も一緒にご受講ください。

なお、保護者の方は【一般の方】申込フォームよりお申し込みください。

修了証書

2日以上受講された方には、ご希望により修了証書を交付します。

修了証書を希望される方は、お申込画面で「修了証書を希望する」にチェックのうえ、

修了証書送付先の住所をご入力ください。

発送は1月中旬以降になります。

※受講料が無料の方には修了証書は発行しません。



よくあるご質問

Q「難易度はどのくらいですか？」

講義内容の多くは初心者でも分かるものですが、一部専門知識を有する方向けの内容も含まれます。公開講座の受講者は、初心者から専門知識を持つ方まで、様々です。

Q「事前に申込をしていますが、受講できますか？」

事前のお申込が必要です(空席があれば講座当日も申込可) 東京大学公開講座のWebサイトからお申し込みください。

Q「休講する場合がありますか？」

台風などの荒天や交通機関の運行休止、感染症の流行などにより、やむを得ず休講とすることがあります。この場合は、前日の午後5時までに、本学Webサイトに掲載いたします。Webサイトをご覧いただけない場合は、お手数ですがお電話でお問い合わせください。また、講師の急病・事故等により、やむを得ず休講とすることがあります。この場合は、決定次第本学Webサイトに掲載いたします。なお、上記の事由により休講となった場合は、可能な限り振替講座を行います。事情により開催できないこともあります。いずれの場合も、交通費・宿泊費等は補償できません。

Q「講座の内容を録音・録画・撮影することはできますか？」

講座の録音・録画・撮影等は、固くお断りいたします。

Q「オンライン配信はされますか？」

オンライン同時配信は実施いたしません。

なお、すべての講座ではありませんが、後日、UTokyo Channel(<https://ch.u-tokyo.ac.jp/>)でご視聴できます。

Q「Webサイトでの申込が難しいのですが、Webサイト以外で申し込むことはできますか？」

申し訳ございませんが、本講座ではWebサイトでの申込としております。他の方法でのお申込はできません。

Q「身分証として使えるものは何がありますか？」

受講申込方法をご覧ください。リストに記載のないものでも受講されるご本人の氏名が分かるものであれば、身分証として有効です。不明な場合は、お問い合わせください。

Q「友人や家族の分を申し込むことはできますか？」

代理申込はご遠慮ください。トラブルの原因になりますので、原則、受講されるご本人がお申し込みください。

お問合せ

東京大学本部社会連携推進課

メール ext-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

TEL 03-5841-1610 受付時間：平日9:00～12:00／13:00～17:00

東京大学では在宅勤務を実施しております。

ご不明点がありましたら、メールにてお問合せください。